

愛知県の汽水湖油ヶ淵に生育する水生植物調査

清水美登里（愛知県環境調査センター）

愛知県で唯一の天然湖沼である油ヶ淵は、愛知県西三河地方の碧南市と安城市の境に位置する、平均水深約 3m の比較的浅い汽水湖である。この油ヶ淵では、周辺地域の都市化や閉鎖性水域であることなどから、全国的に汚濁の進んだ湖沼であったため、愛知県と油ヶ淵周辺 4 市（碧南市、安城市、西尾市及び高浜市）が水質改善のための事業を継続的に実施している。

現在、油ヶ淵では水質調査として、透視度、化学的酸素要求量（COD）、溶存酸素（DO）等の調査が定期的にされているが、生物の生育生息調査は行われておらず、過去の生物生育生息情報も散在しているのが現状である。

2010 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）で決定された愛知目標の 1 つに「自然生息地の生物多様性・生態系の更なる損失・劣化を食い止め、生物多様性の保全状況を改善する」とあり、そのためには、科学的根拠に基づいた生物多様性の定量的な評価を行い、効率的な保全施策に結びつけることが不可欠と考えられる。

そこで、油ヶ淵において、過去に生育していた水生植物の状況を把握するため、過去の調査報告書の情報収集を行い、水生植物のデータベース化を行った。また、水生植物のうち、主に沈水植物について定量的な評価を行うことを目的として、2014 年から 2017 年の 7 月と 9 月において、油ヶ淵内 5 カ所の調査地点で水草採集器を用いた調査を行った。

その結果、大型抽水植物を除いた種類数については、1993 年の文献では 10 種、1994 年の文献では 9 種、2001 年の文献では 7 種、2007 年の文献では 12 種となった。外来種の状況については、コカナダモとホテイアオイがすべての調査年で確認されたが、オオサンショウモ、ハゴロモモ、オオカナダモについては、2001 年までは確認されていなかった。

2014 年からの現地調査では、11 種の水生植物を確認したが、そのうち在来種は 6 種だった。

水草採集器を用いた水生植物の量的な変化については、調査年により異なっていたが、規則性は確認できなかった。水生植物の乾燥重量における外来種の割合は 70%以上であった。このことから、現存量の観点から見ると、現在の油ヶ淵に生育する水生植物の多くが外来種であることがわかった。

今後も水草採集器を用いた調査を継続することで、水生植物の質的变化だけでなく、量的変化の調査ができると考えられる。

キーワード：水生植物、油ヶ淵、モニタリング、愛知県